

We Love 東区 だからみんなで考える!!
～地域の未来を拓くヒントあります～

高校生の参画で拓く 東区の未来

～なぜ今「地域で探究」なのか?～

令和2年1月18日(土)・岡山市東区
大正大学 地域構想研究所
教授 浦崎 太郎

4 目の新しい世界を
みんなに

9 産業と探究教育
連携をつつよ

11 学びの力を
つなぐ

17 パートナーシップ
目標を達成しよう

大正大学
DAISEI UNIVERSITY

高校生の参画で拓く東区の未来

近年 どんな高校生が育っているか?

日本の教育は今どこに向かっているか?

「子供の才能を引き出す」とは何か?

人材育成に民間人が果たしうる役割は何か?

いま大人は どう変わる必要があるか?

視点 育成を目指す資質・能力 (新指導要領)

- ① 何を理解しているか 何ができるか
(知識・技能)
- ② 理解していること・できることをどう使うか
(思考力・判断力・表現力)
- ③ どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか
(学びに向かう力・人間性等)

「主体性・多様性・協働性」「メタ認知」も含む



主催者(雪国青年会議所)からの御礼

多大なるご協力、ありがとうございました!

予想を上回る頑張りと来場者となり、大成功のうちに雪まつりを終えることができました。

高校生の皆さんからアイデアとパワーを頂き、私たち実行委員メンバーはじめ、関わった大勢の大人達に逆に火を付けてくれました。

衰退しつつあった「雪まつり」に子どもからお年寄りまで楽しめる昔ながらのココロ暖まる手作りのお祭りを見事復活してくれました。

そして動きだす(もう動いてますが笑。)新たなプロジェクト...

それは、南魚沼市に最も適した政策を作ること。実現ベースでの壮大な研究テーマです。

そこで、皆さんと南魚沼市について意見交換する場を作りたいです。現状に対しての意見、自分がまだ知らない魅力など...多くの方、幅広い世代からの声を聞きたいです。詳細はまだ決まっていませんが、前向きに進めていこうと思います^^*もし、やるなら参加してもいいよ、という方はコメントで一言お願いします<(_*_*)>

本人Facebookの投稿より

R1.5.21.

次にむけて動き出した「雪まつり」実行委員の生徒

1. 目的
南魚沼市の復興や人口増加につながる地域を研究し、復興のヒントを探る。復興のヒントを探る。復興のヒントを探る。復興のヒントを探る。

2. 内容
(1) 南魚沼市の現状研究
南魚沼市から発行されている資料の調査から、復興のヒントを探る。
(2) 比較研究
人口や地理的要素、産業など特色が南魚沼市に似ている市町村について調査を調べる。また、その市町村で復興に成功している事業があれば、それについても調査を調べる。
(3) 政策紹介
(4) (1) (2)の調査から南魚沼市の未来に必要だと考える政策を編み、そして市議会や自治体の関係者に説明してもらい、改善を促す。

3. 発表の時期
2019年11月中旬予定(5日(日)発表予定)

4. 研究計画
(1) 5月31日までに「南魚沼市の現状研究」を終了。
(2) 7月31日までに「比較研究」を終了。
(3) 8月中旬「比較研究」で導き出した調査結果を打ち、成果を整理する。
(4) 10月中旬までに「政策紹介」を終了。
(5) 11月中旬の市議会(議事録)に向けた準備。

5. 学校や社会への貢献
校内発表を通じて他の生徒にも南魚沼市について考えってもらうきっかけとする。また、自身の身の周りの問題への考えを深め、今後の地域問題への研究で。



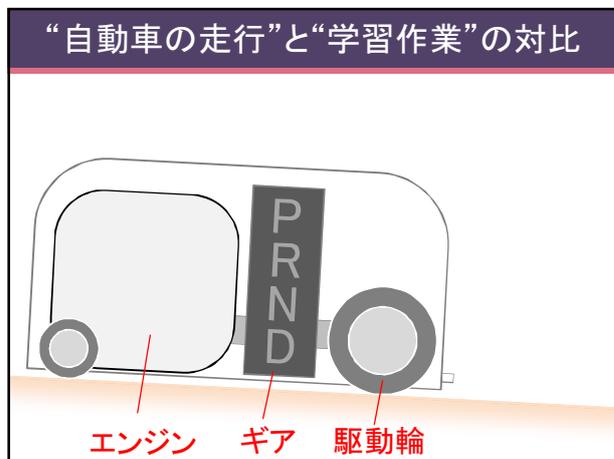
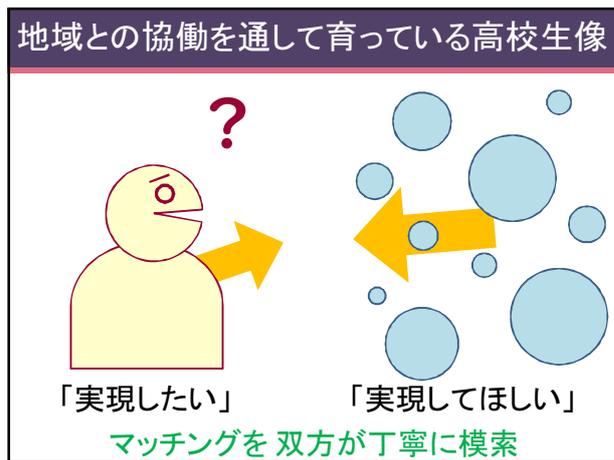
温泉活性化のため「トビタテ留学JAPAN」で台湾へ短期留学。「Social Inovator 育成者」になると九州大学共創学部へ(AO入試合格)

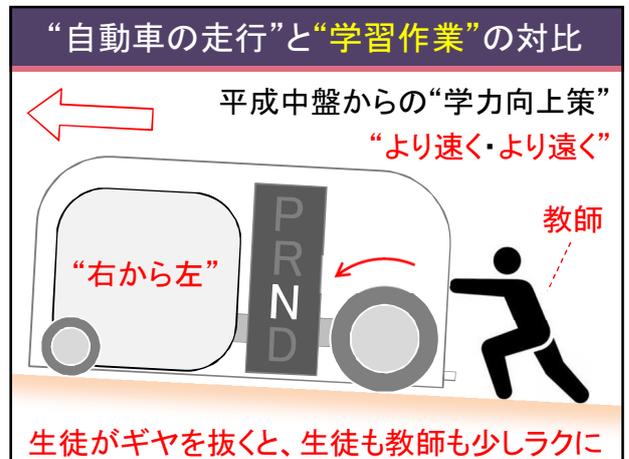
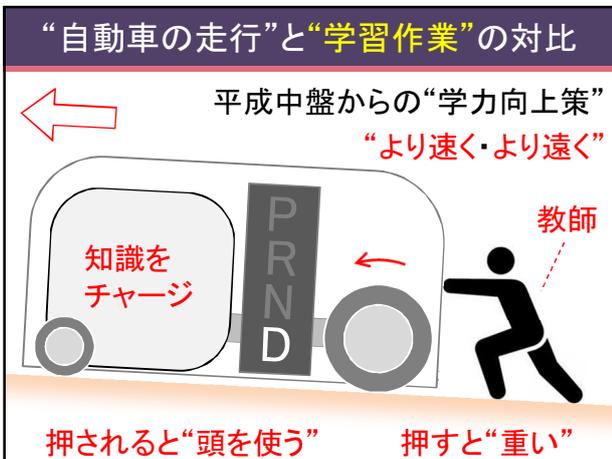
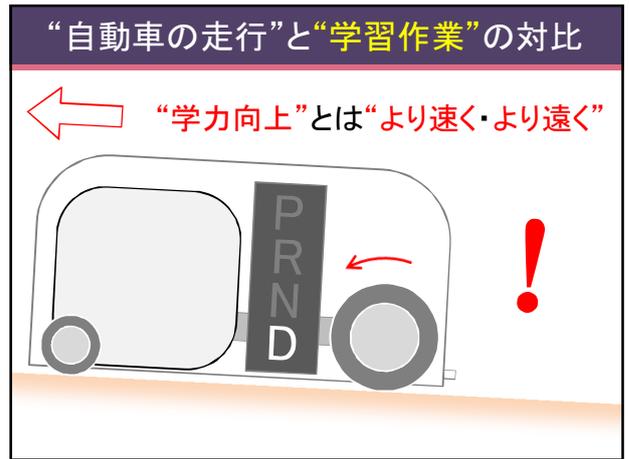
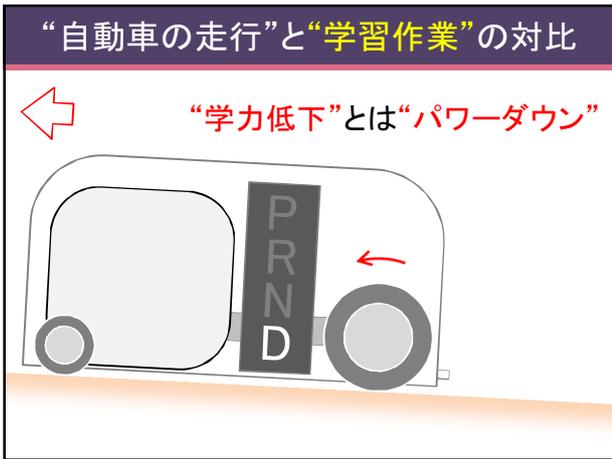
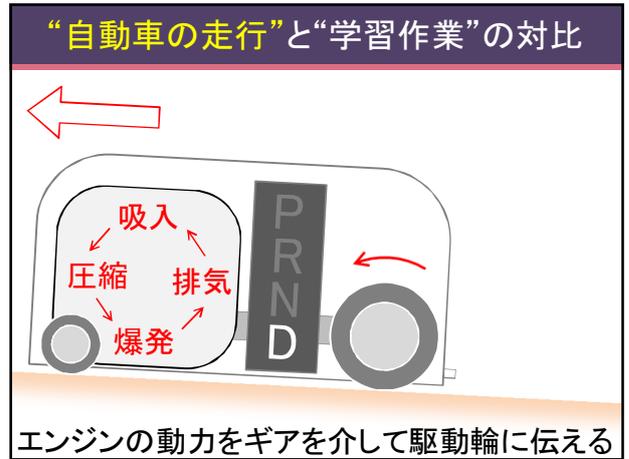
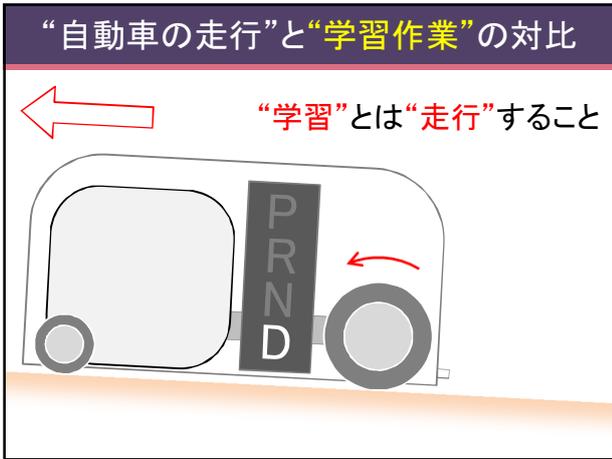


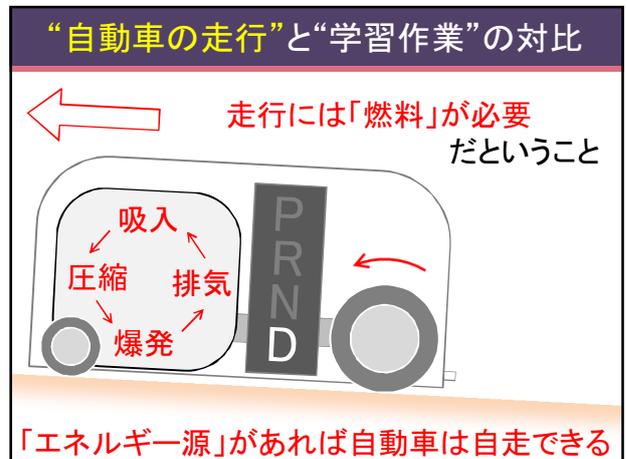
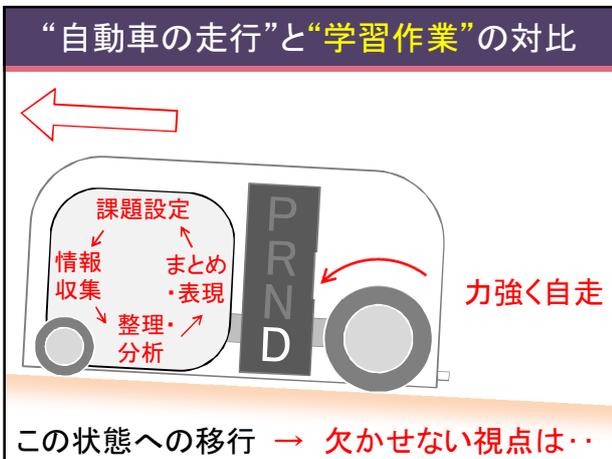
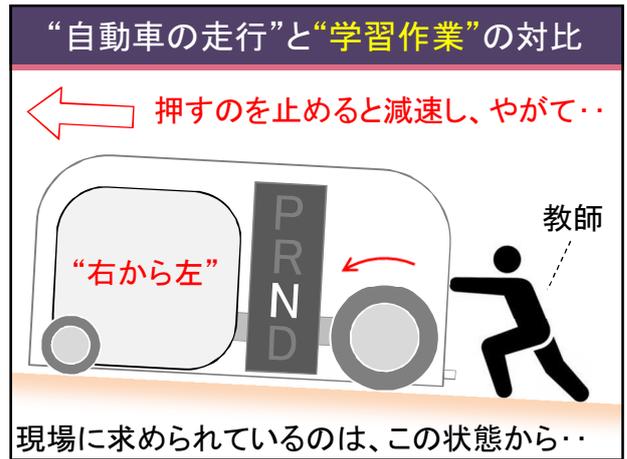
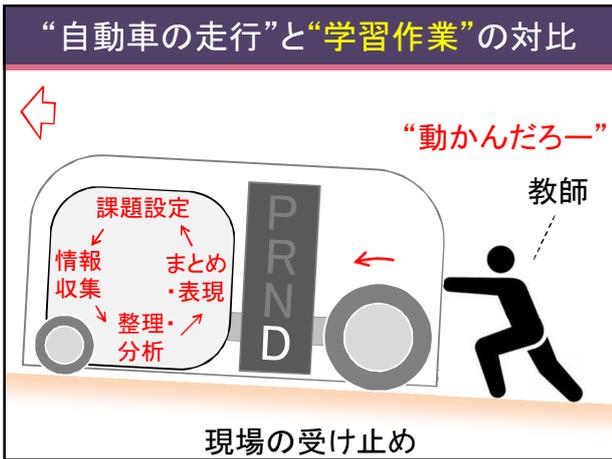
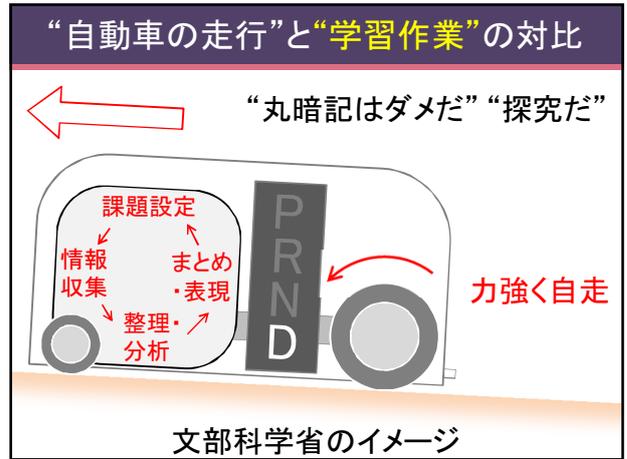
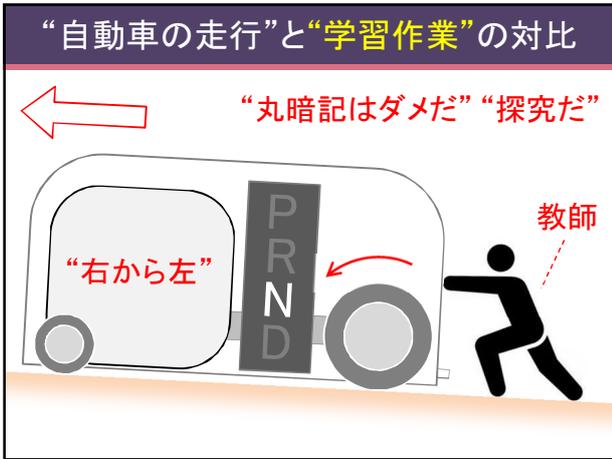
宮崎・飯野高校「グローバル学習成果発表会」



全国高校生マイプロジェクトアワード 中四国サミット







“自動車の走行”と“学習作業”の対比

エネルギー源:「勉強は嫌だけど、我慢して点数を取れば、高収入が約束される」

“受験勉強”

PRND

自走

日本で Society 3.0(工業社会)が回っていた頃

“自動車の走行”と“学習作業”の対比

「勉強は嫌だけど、我慢して点数を取れば、高収入が約束されるのか??」

“受験勉強”

PRND

平成初期・・・バブル崩壊・就職氷河期

“自動車の走行”と“学習作業”の対比

こうして起こったのが“学力低下”なのかも

“受験勉強”

PRND

??

平成初期・・・バブル崩壊・就職氷河期

“自動車の走行”と“学習作業”の対比

ゆえに“学力向上”の本質は“エネルギー問題”

しかし“燃料”は枯渇!

課題設定
情報収集
まとめ・表現
整理・分析

PRND

どこでどう調達すればよいか?

“自動車の走行”と“学習作業”の対比

それは、生徒一人ひとりの知的欲求

“知りたい”
“学びたい”
“実現したい”

課題設定
情報収集
まとめ・表現
整理・分析

PRND

どこでどう調達すればよいか?

カリキュラム・マネジメントと個別最適化

(共通の作法)

教科A 教科B 教科C 教科D 教科E 教科F

総探

熱源

※ 関係性や熱源は個性が高い

各生徒の中で「学びが組織化」されているか



第2回 全国小規模校サミット (山形県小国町) R1.7.31.

「小規模校サミット」と国語の有機化

全国の小規模校に通う皆さんへ

はじめまして、私は山形県小国町にある唯一の公立高校、山形県立小国高等学校に通う二年の古田健人です。皆さんは日々、学校生活に忙しかつたでしょうか。小国町は山々の果てにあり、冬は雪が降り、夏は暑い。この土地は、全国の小規模校サミットの会場となりました。今日は、全国の小規模校の先生や生徒が集まり、交流の場となりました。私は、この機会に、自分の学校について、そして、国語の授業について、皆さんと話をしたいと思います。

昨日、第一回小規模校サミットで、小国町で開かれた。初めに、小国町の先生や生徒が、小規模校の現状について、話した。小国町の先生は、小規模校の現状について、話した。小国町の先生は、小規模校の現状について、話した。小国町の先生は、小規模校の現状について、話した。

令和元年五月 小国町立小国高等学校 サミットメンバー 古田健人

高校生の参画で拓く東区の未来

近年 どんな高校生が育っているか？

日本の教育は今どこに向かっているか？

「子供の才能を引き出す」とは何か？

人材育成に民間人が果たしうる役割は何か？

いま大人は どう変わる必要があるか？

「Society 5.0」と「探究」

- Society 1.0 狩猟採集社会 (縄文)
- Society 2.0 農耕社会 (弥生～江戸)
- Society 3.0 工業社会 (明治・大正・昭和)
- Society 4.0 情報社会 (平成～)
- Society 5.0 AI社会 (もうすぐ?)

■ Society 5.0 (AI時代)

人間にしかできないこと = 探究

5月3日 朝の移動ルート H30.5.3

H30.5.3 「なぜ、山間部なのに平野が広がっているのか？」

H30.5.3 「なぜ、「千曲川」はこんなに水量が多いのか？」

平成30年 5月3日の探究活動

課題設定

「なぜ、山間部なのに平野が広がっているのか？」

「なぜ、「千曲川」はこんなに水量が多いのか？」

情報収集 ・ 類似の光景はなかったか？

「神通川×富山平野、最上川×庄内平野・・・」

整理・分析 ・ 共通性は何か？

「豪雪地帯・雪解け水！」 探究プロセス

まとめ・表現

「大量の雪解け水で運ばれてきた土砂が堆積した」

Society 5.0 (= AI 時代) に必要な力

- 人間には容易だが AI には困難なこと
 - ① 現場で「感じる」こと
 - ② 問いを立てること
 - ③ 意味を味わうこと

探究
(自問自答)

↓

- ・ 課題発見(問い)には 現場(地域)で「感じる」ことが必要
- ・ 感性には個性 → 探究テーマは高い個性

これからの時代に必要な力

- Society 5.0 (AI時代)
 - 人間にしかできないこと = 探究
- Society 4.0 (情報社会・ネット社会)
 - 知識は瞬時に賞味期限切れ
 - ・「知恵を生み出す」力が必要
 - ・「三人寄れば文殊の知恵」
 - ・「徹底的に個性を伸ばす」ことが必要

若者が帰属意識をもつ集団・場所

「その価値を実感できる」「楽しい」のほか・・・

- ① 親近感・一体感をもてる人たちがいる
- ② 自分をそこで表現できた
- ③ 自分がそこで成長できた

↓

若者は自分に無関心な地域には戻ってこない
信頼を寄せる大人から誘われれば
喜んで参加し、一緒に挑戦し、表現・成長できる

推薦図書



住んだこともないのに生活してるって感じることもあります

自分でハッシュタグ (#離島 #起業 #デザイン) を付けたり外したりしながら、自分らしい暮らしだとか地域を探したり作ってるのかもね

人材の育成・回帰にむけて必要な投資

- Society 5.0 (AI時代) の教育
 - 一人ひとりの感性・興味関心に応じた探究
- Society 4.0 (ネット社会) の教育
 - ・「三人寄れば文殊の知恵」
 - ・「徹底的に個性を伸ばす」
- 若者が帰属意識をもつ地域
 - ① 大人(≒地域課題)との一体感がある
 - ② 興味関心に応じて成長・表現できる

↓

「公正に個別最適化された学び」が必要

Society 3.0 の教育 vs 4.0 の教育

3.0 (工業社会)	4.0 (情報社会)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定型作業に需要 ・ 人も規格品が有利 ・ 生徒は学校に従属 ・ 興味関心を封印 ・ 全員一律(40名クラス) ・ 管理強制 ・ 人や社会から遮断 ・ 学校で完結可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価値創造に需要 ・ 尖った人物が有利 ・ 学校が個性を開花 ・ 興味関心を尊重 ・ 学びの個別最適化 ・ 挑戦に伴走 ・ 人や社会と繋げる ・ 学校で完結不可能

平成は世界の潮流に逆行して衰退した時代

高校生の参画で拓く東区の未来

近年 どんな高校生が育っているか？

日本の教育は今どこに向かっているか？

「子供の才能を引き出す」とは何か？

人材育成に民間人が果たしうる役割は何か？

いま大人は どう変わる必要があるか？

Society 5.0 (= AI 時代) に必要な力

■ 人間には容易だが AI には困難なこと

① 現場で「感じる」こと
② 問いを立てること
③ 意味を味わうこと

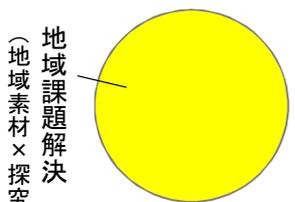
探究
(自問自答)

↓

- ・ 課題発見(問い)には
現場(地域)で「感じる」ことが必要
- ・ 感性には個性 → 探究テーマは高い個別性

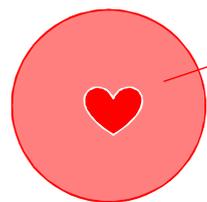
地域課題解決 と 個別最適化

(地域素材 × 探究能力)



“地方創生”以後に強調された教育内容

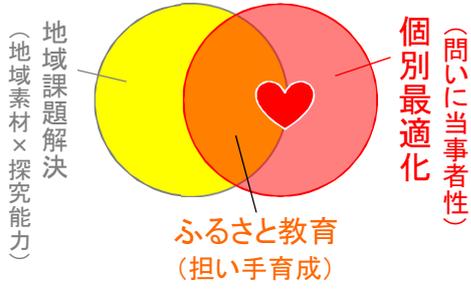
地域課題解決 と 個別最適化



典型例は「マイプロジェクト・アワード」

地域課題解決 と 個別最適化

(地域素材 × 探究能力)



両者をどう重ね合わせるかが腕の見せ所

地域課題解決 と 個別最適化

- 課題研究に対するトラウマ
 - ・ “個別にさせたらオペレーション不能”
- 大船渡高校のマジック
 - ・ 200名の個別探究を一斉オペレーション
 - ↓ 個別最適化が徹底しているのでは？
- 仮説
 - ・ 探究活動の多人数オペレーションは
個別最適化を徹底してこそ可能になる
 - 大正大学の地域実習で検証**

音声ガイド (YouTube)

大正大学地域創生学部 地域実習地に到着 (R1.9.18)

石見神楽 (益田市久々茂地区 奉納神楽)

3年・武田東大君は「石見神楽の音声ガイド」に挑戦 (R1.9.20)

3年・TRB 1部・SN55 (R1.10.7)

益田市久々茂地区 奉納神楽 (R1.9.18)

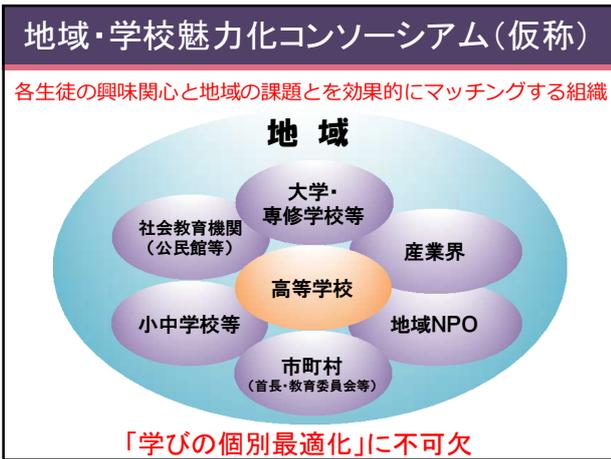
益田市久々茂地区 奉納神楽 (R1.10.8)

地域課題解決 と 個別最適化

- 仮説
 - ・ 探究活動の多人数オペレーションは 個別最適化を徹底してこそ可能になる
- 検証
 - グループに課題を与えるより「楽」
 - ・ 学修活動に対する主体性に格段の差

↓ 大正大学の地域実習で試行

「学力観」「生徒観」の根本的転換が必要?



高校生の参画で拓く東区の未来

- 近年 どんな高校生が育っているか?
- 日本の教育は今どこに向かっているか?
- 「子供の才能を引き出す」とは何か?
- 人材育成に民間人が果たしうる役割は何か?
- いま大人は どう変わる必要があるか?

採用等に関する地元企業への調査

よしき
 古城高生の地域活動がさらに活発化すると
 飛騨市(岐阜県)の企業が抱えている
 人材の育成や採用に関する以下の問題が
 一体的に解決する可能性が高まる

元気で提案力のある若手がほしい
 人柄や能力がよく分かった人物を採用したい
 多様な年齢層の社員と関われる力がほしい

高校生を「地域に返す」重要性

- 学校に囲い込まれた高校生
 - ・ 価値観が狭く、管理されるため、意欲は低下
 - ・ 多様性が低いのでアイデアは浮かびにくい
 - ・ 人柄や能力は地域の大人に伝わりにくい
 - ・ 幅広い年齢層の集団と関わる機会が乏しい
- 地域と豊かな関わりをもつ高校生
 - ・ 居場所で存分に表現できるため 意欲は向上
 - ・ オモシロい人もいるのでアイデアが浮かぶ
 - ・ 人柄や能力が地域の大人に自然に伝わる
 - ・ 幅広い年齢層の集団と関わる機会が豊か

提示して 共感が得られたプラン

- ① 「吉城高生と地域行事等を活用して人間関係を上手に形成し、思いを共有することにより、
- ② 大学等へ進学した後に『帰郷して貢献したくなる気持ち』が自然に高まるようにし、
- ③ 帰省時等に交流を重ねて、インターンシップ等へとつなげ、
- ④ その延長線上で採用が実現する仕組みをみんなでつくっていけないか？

岐阜県内における共同研究 (2019年度)

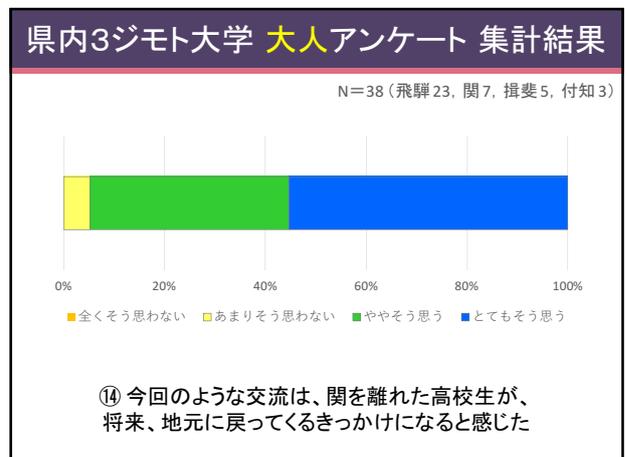
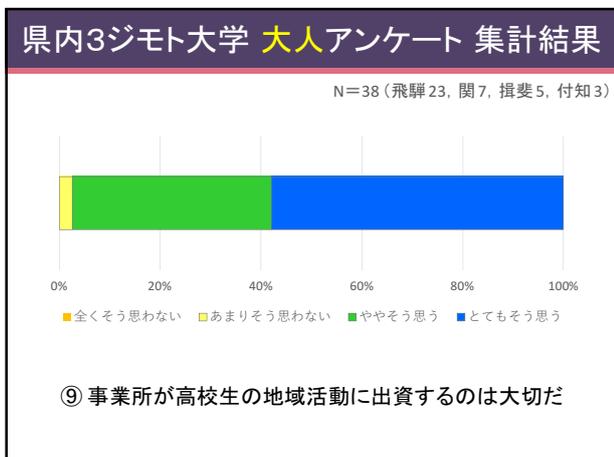
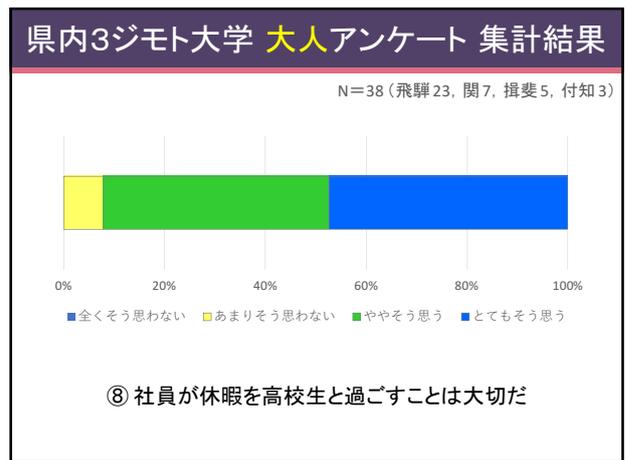
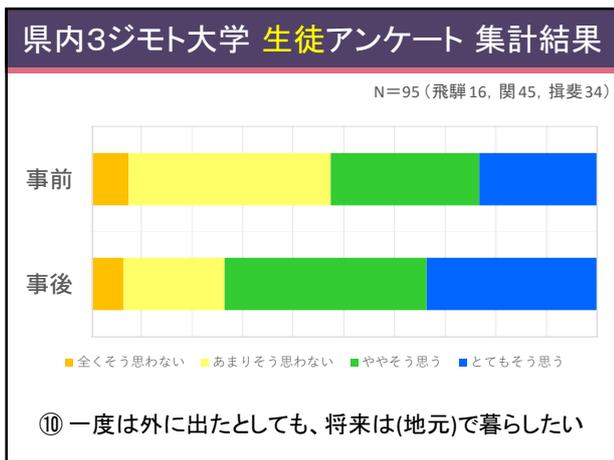
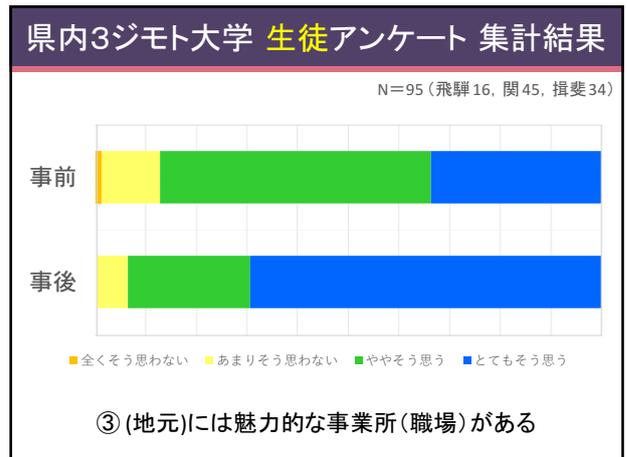
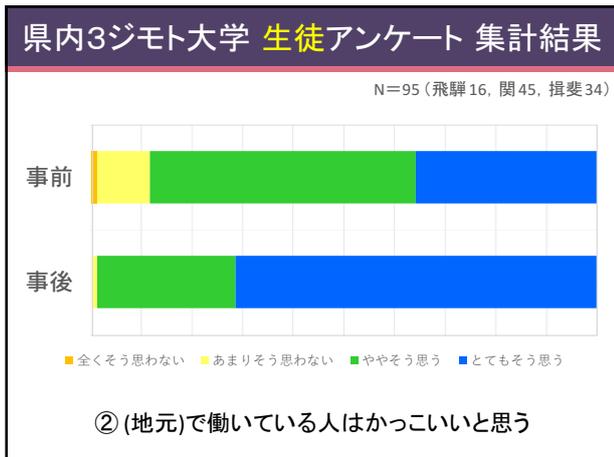
- 仮説
地域の人々(特に企業関係者)が高校生と地域で“共汗&共感”体験をすれば産業人材の育成&採用に有効と実感でき多世代交流型の地域教育に対する経済界からの理解度や支援が向上する。
- 検証方法
市民団体等が企画・運営する多世代交流型地域教育プログラムの前後にアンケートを実施し、対話度を軸にスコアを比較する。

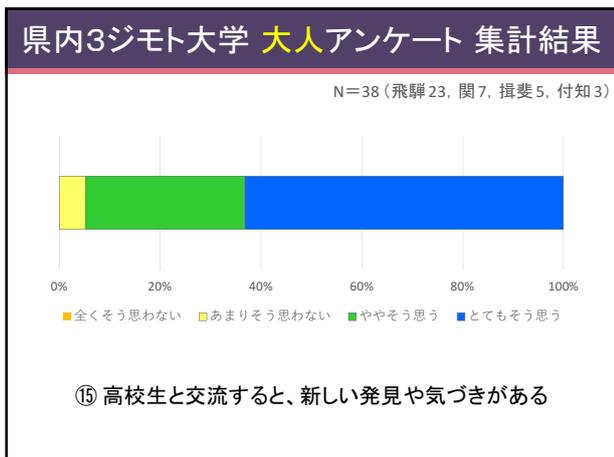
岐阜県内における共同研究 (令和元年度)

- スケジュール
- 6~7月 活動と評価について企画者と共有 (評価指標を参考に企画を洗練)
- 7~10月 各団体等の主催で活動を実施 (前後にアンケートを実施)
- 11月上旬 アンケートの集計&分析
- 11月25日 第2回研修会で成果を共有

↓

「高校生と企業人が地域で交流」する重要性を「地元経済」「UIターン」「高校」関係者に発信





民間で高校生に投資する重要性

- 実践を検証して得られた知見
高校生と地域の人々(特に**企業関係者**)が**地域**で交流し“**共汗&共感**”体験をすることは、**産業人材の育成&採用**に有効である。
↓ 世の中は未だ**大学受験に価値観**
- **岡山の民間団体・有志が打ちうる手**
高校生が**企業関係者等と交流できる機会**を確保するため、**十分な規模の受け皿を休暇等に地域で提供できる体制**をつくる。

高校生の参画で拓く東区の未来

- 近年 どんな高校生が育っているか？
- 日本の教育は今どこに向かっているか？
- 「子供の才能を引き出す」とは何か？
- 人材育成に民間人が果たしうる役割は何か？
- いま大人は どう変わる必要があるか？

人材育成を語る際の心得

子供や若者が育つか否かは

「子供や若者に何をするか？」よりも **to do**

「大人がどうあるか？」に左右される。 **to be**

(知識・意識・感覚・態度・見方・考え方・関係性)

社会の“種類”と次世代の育成

- **Society 2.0 (農耕社会)** .. **均質性重視**
 - ・ 先祖伝来の土地や文化をそのまま継承
 - ・ 個性や抜きん出た才能は不要
- **Society 3.0 (工業社会)** .. **均質性重視**
 - ・ 「規格品の大量生産」が富の源泉
 - ・ 人も「規格品の大量生産」..個性は封印
- **Society 4.0 (情報社会)** .. **多様性重視**
 - ・ “三人寄れば文殊の知恵”が富の源泉
 - ・ 「個別最適化」で熱情や個性を徹底開放

高校生に対する意識・態度

- **Society 2.0**
 - ・ 人は生まれ育った地で生きていくものだ。
 - ・ 地域の担い手は地元出身者だ。
 - ・ 進学や就職で外に出すな！
 - ・ 長老の言うことを聞け！
 - ・ 今まで通りのやり方に従え！
 - ・ 勉強させるな！..出たら帰ってこないから
 - ・ 郷土愛を植え付けろ！
 - ・ 外に出ても戻って来い！
 - ・ 言うことを聞く者なら 外来者は歓迎！

高校生に対する意識・態度

■ **Society 4.0~**

- ・ 生きる道は“三人寄れば文殊の知恵”だ。
- ・ 自分ならではの才能を存分に伸ばせ！
- ・ 最大限に成長&表現できる環境を選べ。
- ・ 才能をフルに活かせるところで生きよ。
- ・ 専門性を高めて広い世界を渡り歩け！
- ・ 地元に戻ることは優先しなくてよい。
- ・ この地で成長&表現したい若者は大歓迎！
- ・ この地にある資源を活かして、何かを**一緒に創り出していける人物は大歓迎！**

Society 2.0→4.0の移行例 (北海道浦幌町)

“福業”で地方創生シンポジウム
11.27...19日 Nagasaki GSID

東京の大手企業から社員を副業で迎えて地方創生

Society 2.0→4.0の移行例 (北海道浦幌町)

地元・浦幌の関係者(林業・まちづくり)と副業で十割に参画する大手企業社員で「古材風新材」を販売する会社を設立

Society 2.0→4.0の移行例 (北海道浦幌町)

大手企業社員とのコラボによって高収益の事業を創造することに成功した

Society 2.0→4.0の移行例 (北海道浦幌町)

Society 2.0→4.0の移行例 (南魚沼市)

H31.2.10.

高校生・教師・地域が関わりあって揃って変容

Society 2.0→4.0の移行例 (岐阜県飛騨市)

H30.11.14
「飛騨市学園構想」=「コンソーシアム設立」顔合わせ

H31.4.2
教育長・学校教育課長と「飛騨市学園構想」打合せ

「飛騨市学園構想」とは、
「保小中高×地域」で人づくりを進める構想

これまでの行政プロセス

■ **事務局 (説明を通す=問いを避ける意識)**

- ・ 少数の担当者が案をつくる (企画の主体)
- ・ 質問が出そうなことは先回りして対応する

■ **検討委員会 (説明から出発)(委員はゲスト)**

- ・ 事務局が細部まで一方的に説明しまくる
- ・ 委員からの質問や意見に事務局が答える

↓ (正解を持っている)

- ・ 対話性が乏しく、全体最適案はできない
- ・ 委員のチーム性や参画意欲は高まらない

これまでの授業 = 教授

■ **教師 (説明を通す=問いを避ける意識)**

- ・ 教師は「生徒に教える流れ」をつくる
- ・ 質問が出そうなことは先回りして対応する

■ **授業 (説明から出発)(生徒はゲスト)**

- ・ 教師が細部まで一方的に説明しまくる
- ・ 生徒からの質問・意見に教師が答える

↓ (正解を持っている)

- ・ 対話性が乏しく、深い理解はできない
- ・ 生徒の当事者性や創造性は高まらない

これからの授業 = 探究

- 教師 (問いを引き出す意識)
 - ・ 教師は「生徒が学ぶ流れ」をつくる
 - ・ より本質的な質問が生まれるよう工夫する
- 授業 (問いづくりから出発) (生徒が主体)
 - ・ 生徒から問いを誘発し 考えも引き出す
 - ・ 生徒が問い 生徒達自身で考える (= 探究) (唯一解はない) ↓
- ・ 対話性が高く、納得感の高い解に至る
- ・ 各生徒の当事者性や創造性が向上する

これからの行政プロセス = 探究

- 事務局 (問いを引き出す意識)
 - ・ 事務局は「委員が創り出す流れ」をつくる
 - ・ より本質的な問いが生まれるよう工夫する
- 授業 (問いづくりから出発) (生徒が主体)
 - ・ 委員から問いを誘発し 考えも引き出す
 - ・ 委員が問い 委員達自身で考える (= 探究) (唯一解はない) ↓
- ・ 対話性が高く、納得感の高い解に至る
- ・ 各委員の当事者性や創造性が向上する

まとめ：大人に求められる態度

- Society 4.0 (情報社会) .. 多様性重視
 - ・ “三人寄れば文殊の知恵”が富の源泉
 - ・ 「個別最適化」で熱情や個性を徹底開放
- ↓
- ・ 多様性の高い顔ぶれが集い、皆が「自分らしい参画」を追求し、身近な課題の発見や解決にむけて一緒に挑戦すると、揃って進化できる。
- ↓
- (高校生や地域起こし協力隊を迎える意味)



中高生の「マイテーマ」に伴走する動きに参加・応援を

高校生の参画で拓く東区の未来

- 近年 どんな高校生が育っているか？
- 日本の教育は今どこに向かっているか？
- 「子供の才能を引き出す」とは何か？
- 人材育成に民間人が果たしうる役割は何か？
- いま大人は どう変わる必要があるか？

We Love 東区 だからみんなで考える!!
～地域の未来を拓くヒントあります～

高校生の参画で拓く東区の未来

～なぜ今「地域で探究」なのか？～

令和2年1月18日(土)・岡山市東区
大正大学 地域構想研究所
教授 浦崎 太郎

大正大学
DAISEI UNIVERSITY

地方は「Society 2.0」からの卒業を

大正大学地域構想研究所 教授 浦崎 太郎

地方創生が始まり、若者の“地元定着・地元回帰”が叫ばれるようになって、5年の歳月を迎える。他方、日本は今、Society 5.0 ・ AI 社会への転換を迫られている。ところが、両者は残念ながらリンクされることなく語られている。

地方創生が第1期の5年を終え、まもなく第2期の5年が始まるにあたり、「若手人材確保」と「Society 5.0」の関係性を冷静になって考え直す必要があるのではないかと考えている。その核心は、地方が「Society 2.0 を卒業する」ことだ。

はじめに、Society 1.0 から 5.0 の用語を確認しておこう。1.0は狩猟採集社会で、日本では縄文時代が該当する。同様に、2.0は農業社会で、弥生～江戸時代。3.0は工業社会で明治～昭和、4.0は情報（インターネット）社会で、概ね平成時代以後。そして5.0は令和には訪れるかもしれない時代だ。ここで重要なのは、各々の社会において「次世代の育成や確保」の最適解が異なる点だ。

Society 2.0 では、先祖伝来の田畑を技法とともに継承することが求められるが、そこに個性や抜きん出た才能は必要とされない。

Society 3.0 は、規格品を大量生産することによって、個人も会社も国も豊かになれる社会であり、人材も「規格品を大量生産」するのが合理的だった。個人の興味関心やこだわりは封印し、与えられた学習課題を「忍耐力を発揮し」「努力して」「速く正確に」習得するが求められた時代であり、今日、大人から子供まで、この学習観が染みついている。

Society 4.0 は、インターネットによって知識のもつ価値が瞬く間に賞味期限を迎えることから、新しい知識・知恵・価値を常に生み出し続けることが求められる社会だ。そして、この時代に必要とされるのは“三人寄れば文殊の知恵”に加われる、徹底的に突き抜けた人材だ。それには、一人ひとりの興味関心、いや、パッション（情熱）に基づき、一人ひとりに適合した学びが必要とされる。

そして Society 5.0 は「AIが苦手とし、人間が得意とする力」すなわち「感じる・問いを立てる・意味を味わう」力を発揮することが求められる。具体的には、自問自答・探究する態度や能力だ。

以上をふまえて、地方における若年人口の出入りに関する変遷を概観していこう。

Society 3.0 の時代には、地方の人余り感と都会の人手不足感によって、地方から都会への人材移転が進行した。その後、この仕組みが強力に稼働したまま、Society 3.0 は終息し、Society 4.0 に移行。地方では昔年に比べて出生数が大幅に減少しているにも関わらず、若者の流出は

従来通りに進行。「地方創生」によって初めて現実を自覚した、というのが今日までの流れだろう。

問題はここからだ。今後を考える上で決して忘れてならないのは、Society 2.0 的な地域風土が色濃く残る地方社会も、厳然として Society 4.0 に組み込まれており、人材の育成や確保も、少なくとも Society 4.0 に合わせて進める必要が高い点だ。

ここで、この視点から、地方の人々が持っている感覚を見直してみよう。地方には「若者を地域の外に出すな」「郷土愛を植え付けよう」と語る人々が少なくないが、これはまさに「Society 2.0」の発想だといえよう。地元で伝承されてきた、ある意味、誰でも習得できる程度の考え方や技法だけでは、地方社会が立ちゆかない現実を直視する必要がある。もし「Society 2.0」のまま行きたければ、地域外との物流や情報を直ちに遮断するほかない。

では「地元回帰」という考え方はどうか。もしそれが「人は皆、生まれ育った地に戻ってくる必要がある」という認識に基づくものならば、まだまだ「Society 2.0」に支配されていると見るべきだろう。

Society 4.0 では、一人ひとりが突き抜け、固有の才能を周囲との協働によって最大限に発揮することが求められる。その際、最も活躍できるフィールドは本人が生まれ育った地であるとは限らない。すなわち、個々の幸福という観点に立つと、自分の才能を最大限に発揮できる地こそが最適であり、地元回帰は必ずしも最適解とはいえないのだ。他方、今その地域に必要な才能を備えた人材は、その地域の出身者であるとは限らない。つまり「郷土愛・地元回帰」を迫るのは、地域にとっても最適解とは限らない訳だ。

以上より、Society 4.0 の時代、本人のためにも地域のためにも最適なのは、一人ひとりの才能を最大限に開花させ、人材の広域的な流動性を高める方向性である、ということが出来る。そして高校教育も、たとえ統廃合が懸念される過疎地の小規模校であっても、いたずらに「地元のため」に走るのではなく、学習指導要領が指し示しているとおりの「世界のどこに行っても活躍できるよう能力を高める」ことを大切にしていけることが重要だといえよう。

ここで改めて、地方において、元気をまず地域、元気を失う地域を見比べてみると、前者は人材の広域的な流動性を大切に、後者は否定している様子が分かるであろう。

地方創生が第2期を迎えようとしている今、地方創生を Society 5.0 と関連づけて捉え直し、若手人材の育成や確保においてもバージョンアップをはかる地方自治体が増えることを期待したい。

(大正大学地域構想研究所メルマガ 令和元年11月15日号より)